

明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり

～令和6年度全国学力・学習状況調査「家庭用リーフレット」～

富士市教育委員会

4月に全国学力・学習状況調査が行われました。下の問題例のように、実生活における気付きや課題を想定した問題が多く出題され、学校で学んでいることだけでなく、日常の経験を別の場面に生かす力や、自分の考えをもち、伝える力が身に付いているかが問われました。

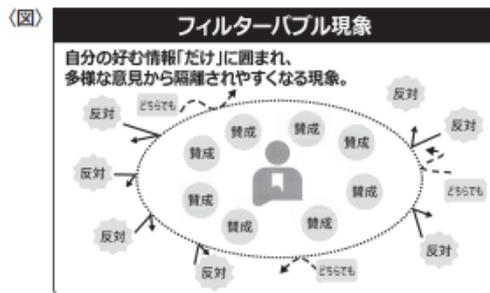
本リーフレットに富士市の子どもたちのよいところや今後の課題などをまとめました。

令和6年度の問題例（中学校国語の調査問題より）

【「フィルターバブル現象」について話し合っている会話文】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。

条件1 「フィルターバブル現象」の特徴を取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと

条件2 会話文に登場する誰の発言と結びつくのかが分かるように書くこと



〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

<正答例>

山岡さんの発言にあった(条件2)、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。(条件1)



皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。



私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

(中略)



そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。



そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできそうですね。



フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

調査問題はここから（国立教育政策研究所HP）

<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>



話合いの話題や展開を捉えながら、どのような条件が求められているかを意識して、自分の考えを述べる必要があります。身の回りのことについて家庭の中で話題にするなど、様々な人の考えを聞きながら、自分自身の考えを表現していくことを大切にしましょう。

教科に関する調査結果（平均正答率）

※本調査により判定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一部分です。

	小学校6年生			平均正答率(%)
	富士市	静岡県	全国	
国語	66	67	67.7	
算数	59	62	63.4	

	中学校3年生			平均正答率(%)
	富士市	静岡県	全国	
国語	56	59	58.1	
数学	52	55	52.5	